

北海道における地域材住宅事業の新たな展開と流域連携の課題 —道東地域を中心として—

加来 聡伸（東京農業大学）

はじめに

北海道網走地域は造林樹種であるカラマツを主体とした林業を展開している地域である。近年では集成材、ラミナ材、合板などの高付加価値製品の需要が増加傾向となり、網走地域は林業算出高でもトップクラスとなったが依然として移出産業としての性格を持つ地域である。

一方、網走地域の美幌町は行政を中心とした森林認証材による地域材住宅の取り組みが 2007 年より始まった。取り組みとしては浅いが、このような地域材住宅の取り組みは川上、川下間の連携を促進するものであり、環境に対する上流域への住民意識の変化が期待されている。しかしながら、美幌町を中心とする地域材住宅は局地的で独自の取り組みでしかなく住宅需要者への市場拡大が課題となっており、上下間の結びつきについて考察を行った。

調査方法

美幌町にある美幌森林組合、集成材生産を行える協同組合オホーツクウッドピア、美幌町に事務所を持つ Y 工務店、T 工務店、A 流通業者(株)、美幌町役場、へ聞き取り調査を行った。役場以外はすべて CoC 取得企業であり、素材生産、流通、加工、消費の観点から上下間の結びつきについて考察を行った。また、そのほかに関連文献、関連資料をあたった。

結果と考察

美幌町の地域材住宅の取り組みは、森林認証材として環境意識へのインセンティブが働き、差別化としての住宅という点から局地的ながらも 2007 年には 3 棟、2008 年以降もすでに 16 棟を建設予定している。また、美幌町の認証住宅に対する補助金は 1 m³あたり 3 万円が支給され、40 坪平均では約 50 万円前後の補助金となり 180~200 万円ほど掛かる木材費用価格に対して十分に賄える額となる。また、美幌町の取り組みとして低炭素な町づくりが行われ、地域住民は環境への関心が高く、植林活動や他県からのカーボンオフセットの活動なども行われ始めた。

このようなことから認証材による産直住宅は環境意識へとインセンティブを高める事業として一応の評価が与えられる。また、町外からの建築業者が 6 割以上を占めていた美幌町にとって町内の建築業者の活用促進へと繋がってきている。一方、認証材の生産流通においてカラマツ材は材の性質上長期的にストックすることはできず、美幌森林組合による材のストックを調節しなければならず、川上と川下の間で情報の共有が必要であり、各関連業者間の連携が求められる。また、美幌町による産直住宅は住宅市場が局地的な理由から希薄なため、市場の拡大が求められ、網走流域での森林認証の普及をはじめとした連携が求められる。

(連絡先: 加来 聡伸 50070005@cp.bi oi industry.nodai.ac.jp)